

# 競技規則 2022年版

**LGFA**  
PEIL na mBAN





## 序論

この小冊子には、レディース・ゲーリック・フットボールに関する競技規則の簡略版が含まれています。競技規則の完全版は、公式ガイドの中に含まれています。

この小冊子の目的は、あらゆる選手ならびに関係職員等が競技規則について解釈し、把握することを確保することです。従って、全ての選手がこの小冊子を保有することが、指導者およびコーチ等によって確保されるということは極めて重要になります。すなわち、これによって、当該競技に関する詳細な把握が改善され、異議を申し立てることなく、関係職員等による決定を受け入れることが可能になります。

この小冊子は、当該競技に関する十分な把握の助長を目的として、本協会によって置かれた重要点について詳細に規定しています。

## 競技場

1. レディース・ゲーリック・フットボールは、14歳未満リーグからフルサイズのGAAピッチで試合が行われます。競技場は、13歳未満リーグならびにそれ以下のリーグのために、規模が小さくなる場合があります。
2. 競技場の大きさ、得点取得に関するエリア、更に試合時間等に関しては、15人制未満の試合を対象として、大会組織委員会によって規模が縮小される場合があります。

## 選手

1. 妊娠している、または脳震盪などを患っている可能性がある選手は、レディース・ゲーリック・フットボールをプレーしてはならないものとします。それにもかかわらず、選手がプレーすることを希望する場合、その選手は、完全に自己の危険負担に従ってプレーするものとします。これに加えて、レディース・ゲーリック・フットボール協会は、これによって発生する可能性があるいかなる結果に対しても責任を一切負わないものとします。

## 選手の服装

1. レディース・ゲーリック・フットボールをプレーするための服装は、ジャージ、ショーツ、靴下ならびにフットボール用ブーツです。選手は、レディース・ゲーリック・フットボールをプレーする際、宝石類、イヤリング、ヘアクリップ、または怪我を引き起こす可能性があるような他の品目を着用することができないものとします。人工的な地面のグラウンドが備えられた競技場で試合が行われる場合、選手は保護用のレッグウェアを



着用することができます。但し、チーム内でレグウェアの色彩が統一されることが条件となります。

2. 全ての選手は、レディース・ゲーリック・フットボールをプレーする際、マウスピースを着用しなければならないものとします。但し、有資格の医師あるいは歯科医によって、マウスピースを着用しないことが文書で推奨される場合を除くものとします。選手が、マウスピースの着用義務に従わない場合、レフリーは、その状況が是正されるまで、選手が競技場から離れるように命令を下します。
3. 本規則により、何らかの法律上の注意義務あるいは法律上の責任が、レフリー、ラインズマン、アンパイア、サイドラインの関係職員、チームの関係職員あるいはチーム全体に課されないものとします。つまり、この義務は、個別の選手に対して継続的に課されるのみならず、該当する場合、両親、保護者、あるいは選手に対して法律上責任を負う他の当事者等に対して継続的に課されるものとします。
4. レディース・ゲーリック・フットボールの競技に参加する際、矯正的な眼鏡類の着用が必要とされるとともに、その眼鏡類の着用を希望する選手は、眼鏡類を着用しなければならないものとします。この眼鏡類は、ゲーリック・フットボールの競技を目的とした検眼医による推奨に従い、レンズに関して、耐久性があり、かつ壊れないポリカーボネートが利用されるとともに、耐久性があり、かつ壊れないフレームが利用されるものとします。

## 試合時間

1. 14歳未満リーグから、および14歳未満リーグを含む競技の試合時間は、30分ハーフであり、すなわち、合計1時間となります。



2. 通常の試合時間のハーフタイムでは、15分間を上回らない休憩時間が許可されるとともに、延長時間でのハーフタイムでは、5分間を上回らない休憩時間が許可されるものとします。
3. 7人制の試合ならびにブリッツ・コンペティションに関しては免除されるものとします。すなわち、これらの試合時間は、大会組織委員会によって決定されるものとします。
4. 13歳未満リーグよりも以下のリーグの試合時間に関しては、大会組織委員会による決定に従い、削減される可能性があります。

## チーム

1. チームは、1チーム15人から構成されるものとします。但し、主催組織によって他の方法で決定される場合を除くものとします。
2. 1チーム15人制の試合において、チームは、試合開始を目的として、試合開始の時点で11人の選手を備えなければならないものとします。試合終了の時点では、選手が11人またはそれ以下の人数となる場合があるものとします。
3. 選手リストの複写には、選手の氏名が記載され、インター・カウンティ戦の場合、試合の開始以前に、当該選手が属しているクラブ名についての情報がレフリースに対して提供されなければならないものとします。
4. 12歳未満リーグより上の全てのリーグでは、サイズ4のフットボールが利用されます。ジュニアリーグでは、小さなサイズ3もしくは「フットボール競技用」として推奨されるサイズのフットボールが利用されます。



5. 各選手のジャージに表示されている番号は、チームリスト上に記載されている選手の氏名と一致しなければならないものとします。
6. チームリスト上に15名以上の選手の氏名が記載されている場合、最初の15名が実際のチームを構成する選手として把握されます。但し、他の方法で明確に指示される場合を除くものとします。
7. クラブ、郡あるいは県は、公開のために必要とされる場合、試合開始時の15名の選手、交代選手等が記載されたチームリストを大会組織委員会あるいは協議会に提出しなければならないものとします。

## 交代選手ならびに延長時間

1. インター・カウンティ戦に関しては、国内リーグの準々決勝戦まで、交代選手が無制限に許可されるとともに、県内ジュニアチャンピオンシップのグループステージでは、交代選手が無制限に許可されるものとします。

しかしながら、国内リーグの準々決勝戦、準決勝戦ならびに決勝戦、更に県内ジュニアチャンピオンシップの準決勝戦および決勝戦に関しては、交代選手が5人に限定して許可されるものとします。但し、14歳未満リーグでは、依然として交代選手が無制限に許可されるものとします。

成人リーグの県内および国内チャンピオンシップでは、交代選手が5人に限定して許可されるものとします。

延長時間の場合、追加の5人の交代選手が許可されます。延長時間では、試合時間が10分ハーフであるものとします。

2. 郡内に在籍するクラブのレベルで行われる試合では、交代選



手が無制限に許可されます。交代選手の人数は、郡の理事会によって決定されますが、5人未満であってはならないものとします。

3. 試合中にレフリーによって退場させられた選手に対する交代選手は、**一切許可されないものとします**。しかしながら、**通常の試合時間に**選手が退場の命令を下される場合、その選手は、延長時間に交代選手と交代されることが可能です。
4. 延長時間で試合が行われている場合、通常の試合時間で最初のイエローカードの反則行為のために、シンビン（反則行為あるいは危険行為を犯した選手に課せられる一時的退出）に送られた選手は、シンビンで10分間に亘り試合時間が経過するまで、その延長時間に交代選手と交代されることが可能です。シンビンに送られた選手は、シンビンでの時間の経過の後、試合を再開し、延長時間に交代選手と交代されます。この場合、その選手のチームは、2人目の交代選手を利用したと見なされるものとします。

通常の試合時間に2枚のイエローカードの反則行為のために退場させられた選手は、延長時間に交代可能になるものとします。

## 出血ならびに頭部損傷の疑いに関する規則

1. 試合時間内に受けた怪我の結果として、出血している、あるいは選手の身体もしくは競技用の衣服に血痕が付着している選手は、レフリーの指示に従い、治療を受けるために直ぐに競技場から退場するものとします。同様の規定は、頭部損傷の疑いがある選手に対しても適用されるものとします。

選手は、出血が止まるまで、および全ての血痕が洗浄されるまで、更に血痕の付いた競技用の衣服が洗浄される、あるいは交換されるまで、競技場に戻ってはならないものとしま





す。

頭部損傷の疑いのある選手は、レフリーの指示に従い、選手が試合に戻れるような状況であるかどうかについて判断する以前に、精密検査等のために、競技場から一時的に退場するものとします。

2. 出血を伴う怪我の場合、怪我によって損傷した部分は、できる限り覆われなければならないが、怪我を受けた選手は、**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**と交代することが可能です。この交代選手は、交代選手が、**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**である旨について、書面でレフリーに通告するものとします。
3. 怪我を受けた選手が、以前に交代した選手に対する**直接的な交代**として競技場に再び戻る場合、あるいは競技場に再び戻る際、**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**は、通常の選手交代の規則に基づいて許可される交代選手として**見なされないもの**とします。
4. 怪我を受けた選手が、その選手と直接に交代した**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手以外の他の選手**に対する交代として競技場に再び戻る場合、その選手のチームは、通常の選手交代を**利用したもの**と見なされます。
5. **出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**が**退場**を受ける際、その選手のチームは、最初に怪我を受けた選手を競技場に再び戻すことを希望する場合、他の選手を交代します。これは、通常の選手交代として**見なされないもの**とします。
6. チームが、通常の試合時間または延長時間で通常の選手交代の総定員数を既に利用し、選手が**出血/頭部損傷の疑い**を受ける場合、その選手は、**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**と交代することが可能であるものとします。



7. **出血/頭部損傷の疑い**を受けた選手が試合を再開する準備ができている場合、その選手は、試合の**中断時間**にレフリーに対して選手自身を表明するものとします。レフリーは、止血を確認しなければならないのみならず、競技用の衣類が交換または洗浄され、**出血/頭部損傷の疑いを対象とした交代選手**が競技場から退去したことを確認しなければならないものとします。怪我を受けた選手が、異なる番号が表示されたジャージを着用し、試合を再開する際、レフリーは、その新しい番号を書き留めなければならないものとします。

## 競技規則

1. 選手は、つま先部分で、あるいは片手もしくは両手で、地面からボールを拾い上げることができるものとします。但し、選手が立っている状態であることを条件とします。
2. 選手は、地面でボールを離すことができますが、ボールを保持することは不可能です。
3. ボールは、ボールが保持されている際、蹴ることが可能であり、拳もしくは平手で打つことが可能であるとともに、片手あるいは両手で**1回**地面に跳ねることが可能で、つま先部分から手に移すことが可能です。
4. ボールは、ボールが**保持されていない際**、片手もしくは両手で次々に**1回以上**地面に跳ねることが可能です。
5. 選手は、ボールを片手からもう一方の手に対して**一回だけ**移すことが可能です。但し、ボールを保持していた最初の手が、もう一方の手にボールが移るまで、継続的にボールと接触していることを条件とします。
6. 選手は、敵側の選手がボールを**拾い上げようとしている際**、もしくは**保持しようとしている際**、ボールを蹴ることができ



ないものとします。

7. ボールの保持時間に関しては、4歩移動するために、更に5歩目でボールを蹴るために必要な時間よりも長く保持されてはならないものとします。
8. 選手は、ボールを投げることができないものとします。
9. 意図的な身体の接触は禁止されます。
10. 肩で押しのけながら突撃する行為は禁止されています。
11. レフリーが、怪我を受けた選手（等）に対処するために試合を中断する場合、レフリーによって試合が中断された時点においてボールを所持していたチームは、試合の再開の際、ボールを所持するものとします。試合は、ボールを所持していたチームに対するキックボールで再開されるものとします。しかしながら、そのチームは、キックボールから直接に得点することが不可能であり、全ての選手は、試合が再開される際、ボールから13メートル離れた場所に位置しなければならないものとします。

レフリーによって試合が中断された時点において、いずれのチームもボールを所持していなかった場合、試合は、両チームからの各1人の選手の間でスローインによって再開されるものとします。

12. 選手がボールをハンドパスする際、ハンドパスの手によってボールへの明確な打撃行為が行われなければならないものとします。
13. ボールを保持している際のフェイントあるいは切り返しなどは、**反則ではないものとします**。但し、フェイントなどの技が4歩の規則の範囲内であることを条件とします。



14. 選手は、片手でボールを上に向けて投げることができるとともに、**同じ手で**プレーすることが可能です。
15. ジュニア選手は、インター・カウンティ戦のレベルでは、同一の年齢リーグならびに1つ上の年齢リーグでプレーすることができるものとします（事例として、14歳未満リーグのインター・カウンティ戦の選手は、14歳未満リーグおよび16歳未満リーグでプレーすることが可能ですが、17歳未満リーグあるいはそれ以上の年齢リーグでプレーすることが不可能です。15歳未満リーグあるいは16歳未満リーグのインター・カウンティ戦の選手は、ジュニア、インターメディエイトまたはシニアレベルでプレーすることが不可能です。）。

18歳以上リーグは、成人リーグとして見なされるものとします。

クラブのレベルでは、ジュニア選手は、同一の年齢リーグならびに2つ上の年齢リーグでプレーすることができるものとします。年齢リーグは、12歳未満リーグ、14歳未満リーグ、16歳未満リーグならびに18歳未満リーグとして判断されるものとします。10歳未満リーグまでの全ての年齢リーグの選手は、1つ上の年齢リーグでプレーすることが可能です。すなわち、8歳未満リーグの選手は、8歳未満リーグならびに10歳未満リーグでプレーすることができます。10歳未満リーグの選手は、10歳未満リーグならびに12歳未満リーグでプレーすることができます。更に、12歳未満リーグの選手は、12歳未満リーグ、14歳未満リーグならびに16歳未満リーグでプレーすることができます。14歳未満リーグの選手は、14歳未満リーグ、16歳未満リーグならびに18歳未満リーグでプレーすることができます。16歳未満リーグの選手は、16歳未満リーグ、18歳未満リーグならびに成人リーグでプレーすることができます。18歳未満リーグの選手は、18歳未満リーグならびに成人リーグでプレーすることができます。



16. **未発表**は、競技の参加者として見なされないとともに、試合のプログラムまたはチームリストの中に含まれてはならないものとします。これに違反する場合、競技大会の主催者である委員会あるいは理事会による自由裁量に従い、結果として違約金が生ずるものとします。

## タックル

1. **選手の身体でボールを保持している選手は、規則上、ボールを奪われないものとします。**ボールを奪おうとする試みは、結果として、その相手の選手ならびにチーム側に対するフリーキックとなります。
2. 選手からボールを奪うためにタックルが行われる際、タックルは、ボールを保持している選手が、足ならびに手により単独でボールを操っている、ボールを地面に跳ねている、ボールを蹴っている、あるいはボールをパスする時点で行われなければならないものとします。ボールは、**平手あるいは両手で**弾かれることにより、敵の選手の手から叩き落とされなければならないものとします。

## アドバンテージに関する規則

1. アドバンテージに関する規則は、レディース・ゲーリック・フットボールに適用されるものとします。しかしながら、この規則は、反則行為を罰せられないようにすることを目的としたライセンスではないものとします。アドバンテージに関する規則が試合で利用された後、保証される懲戒処分が反則行為を犯した選手に対して適用される場合があるものとします。
2. ボールを所持している選手がアドバンテージの取得に対して**自由であり、かつ可能である際**、アドバンテージに関す



る規則が適用されなければならないものとします。すなわち、アドバンテージは、明確でなければならないものとします。

3. 反則行為が犯される場合、レフリーは、反則が犯された後の5秒間まで試合を継続することが可能であるものとします。但し、これが、反則を受けたチームのアドバンテージとなることがレフリーによって判断される場合に限定されるものとします。アドバンテージが生じない場合、レフリーは、最初の反則が犯された場所からフリーキックを与えることができるものとします。上記の5秒間の間に、反則を受けたチーム側に対して追加の反則行為が犯される場合、最も有利な場所からのフリーキックが与えられるものとします。ボールを所持している選手が、アドバンテージが適用される際にテクニカルファウルあるいはノンテクニカルファウルを犯す場合、選手は、最初の反則が犯された場所からのフリーキックを与えられるものとします。

試合中にアドバンテージが与えられている際、ボールを所持している選手が、反則行為を犯し、これによってイエローカードまたはレッドカードが確実に提示される場合、その選手は、アドバンテージの取得を喪失するものとします。その選手にはイエローカードまたはレッドカードが提示され、そのイエローカードまたはレッドカードの反則行為が犯された場所から、各チームからの1名の選手の間でのスローインによって試合が開始されるものとします。

ペナルティーキックの場合を除き、反則行為が13メートルのラインの内側で犯される場合、レフリーは、反則行為が犯された地点とは反対側の13メートルのラインからフリーキックを与えるものとします。正当に保証される場合、懲戒処分は、反則行為を犯した選手に対して適用されるものとします。この反則行為を犯した選手は、いかなる場合であっても、試合中の次の中断時間で、反則行為が犯された



ことについてレフリーによって報告されなければならないものとし、ます。

## 試合開始

レフリーは、ホイッスルを吹き、各チーム側からの2名のセンターフィールドの選手の間でボールを投げることにより、前半開始ならびに後半開始の時点において試合を開始するものとし、ます。他の全ての選手は、45メートルのラインよりも後ろで個別に攻撃および守備の態勢を整えるものとし、ます。

## 試合中のボール

1. レフリーが試合開始の合図を与えた後、ボールがスローインまたは蹴られる場合、ボールは即時に試合中のボールとなります。
2. ボールが完全にゴールライン、エンドラインまたはサイドラインを越えるまで、またはレフリーが試合中断の合図を与えるまで、ボールは依然として試合中のボールとなります。
3. ボールがレフリーに直撃した場合、一般の試合ではスローインが与えられなければならないものとし、ます。しかしながら、ボールを所持していたチームがボールを依然として所持している場合、レフリーは、試合の継続を許可しなければならないものとし、ます。フリーキックからのボールがレフリーに直撃した場合、フリーキックが再び行われるものとし、ます。
4. レフリーは、遅延のために、前半ならびに後半で試合時間を延長しなければならない、またはフリーキックが行われるために、試合時間を延長しなければならないものとし、ます。そのフリーキックがその試合時間における前半ならびに後半での最後のキックであるとレフリーによって判断される際、フ



リーキックから直接に得点される場合に限り、あるいはボールが、守備側チームの選手との接触により、クロスバーの下あるいは上に向きを変えて入った場合に限り、得点になるものとします。

5. 選手による取り合いのボールがエンドラインを越える場合、ボールは暴投のボールとして見なされるものとします。

## 試合外のボール

1. **あらゆるボール**が競技場の境界線を越えて外側に出た場合、ボールは試合外のボールになるものとします。
2. ボールがフラッグに直撃する場合、ボールは試合外のボールとして見なされるものとします。ボールが**コーナー**あるいは**サイドライン**のフラッグに直撃する場合、ボールは、**サイドラインのボール**になるものとします。

## 得点

1. ボールが、**選手の身体の一部**によって空中で蹴られる、弾かれる、拳で当てられる、あるいは平手で当てられる際、得点が生ずるものとします。但し、攻撃側によってボールがライン上に投げられる、もしくは持ち込まれる場合を除くものとします。
2. ボールがゴールラインに対して拳あるいは平手によって選手自身の手から直接に当てられる場合、ゴールは**認められない**ものとします。
3. ボールを保持している際、地面に倒れる、あるいは倒される選手は、**地面**でボールを拳あるいは平手で当てることができるとともに、これにより得点が加算される場合があるものとします。





4. **守備側**の選手が、選手自身の得点取得のエリアを通じて、**何らかの方法**でボールをプレーする場合、これは、得点として加算されるものとします。
5. **攻撃側**の選手によってゴールラインに持ち運ばれる、あるいは投げられるボールは、ゴールとして見なされないものとします。
6. ボールが垂直バーまたはクロスバーに直撃し、再び競技場に跳ね返ってくる場合、そのボールは、依然として試合中のボールであるものとします。
7. **攻撃側の選手**が「小さな四角形」のエリア内に位置し、ボールがバーを越える場合、ポイントが認められるものとします。但し、攻撃側の選手が守備側の選手に妨害行為を行わず、ボールが**全ての選手**の手の届かない場所に位置したことを条件とします。
8. ボールが垂直バーを越える場合、ポイントにはならないものとします。すなわち、全てのボールは垂直バーの間を通過しなければならないものとします。
9. PK戦が延長時間の一定の期間後に行われる場合、PK戦は、2つのポスト間で25メートルの地点から行われるものとします。この地点は、レフリーによって指定されるものとします。但し、14歳未満リーグならびにそれ以下のリーグのレベルでの試合の場合、PK戦は、20メートルのラインから行われるものとします。各チームは、ポイント獲得を目的として、5回のキックを行うものとします。各チームが5回のキックを行った後、得点が依然として同点である場合、サドンデスの規則が適用され、勝者が決定されるまで、選手等の中で異なる選手がPK戦に挑むものとします。延長時間の終了時点において競技場に残っている選手のみが蹴る権利を有して



います。延長時間の終了以前に、選手がシンビンに送られる、あるいは退場を受けた場合、その選手はPK戦に参加することができないものとします。ボールは、クロスバーを直接に越えなければならない、あるいはクロスバーに当たり、ボールがそのままクロスバーを越える、もしくは垂直バーに当たり、ボールがそのままクロスバーを越える場合、1ポイントとして加算されるものとします。

ゴール前でボールが地面で跳ねた後、バーを通過する場合、これはポイントとして加算されないものとします。

ポイント獲得のためにキックする際、25メートルのマークを越える選手は、その得点が認められないものとします。

レフリーは、最終的な得点の報告の際、両チームがPK戦で獲得したポイントを延長時間の終了時点での得点に対して加算するものとします。

延長時間は、それぞれ10分から構成されるものとします。

## シンビン

### (反則行為あるいは危険行為を犯した選手に課せられる一時的退出)

「シンビン」に関する規則は、**14歳未満リーグ**より上の全ての年齢リーグに対して適用されるものとします。

1時間あるいは1時間以上の試合時間において、選手が最初のイエローカードの反則行為を犯した場合、その選手は、選手名が記録され、**試合時間の10分間**に亘り競技場から退出させられるものとします（シンビン）。選手は、その場所で選手側チームの交代選手等と一緒にいることができるものとします。

14歳未満リーグより上のリーグで、試合時間における前半ならびに後半が30分未満である場合、選手は、**試合時間の5分間**に亘りシンビンに退出させられるものとします。その試合が延長時間になり、試合時間が1時間を上回る場合、シンビンの時間は、容易な実施を目的として、5分間となります。

試合時間が15分ハーフあるいはそれ以下の時間である場合、シンビンの時間は、試合時間の3分間であるものとします。

選手は、**試合時間**の3分間、5分間あるいは10分間が経過した後、再度試合に参加することができるものとします。但し、**レフリーあるいは指定された関係職員による合意がある場合を条件とします。**

シンビンの時間は、通常の試合時間に従って決定されるものとします。

## 反則

3つの反則の分類、すなわち、通常反則、イエローカードの反則ならびにレッドカードの反則の間での区別が決定される際、その決定に関する重要な要因は、意図の問題であるものとします。

### レッドカードの反則行為

1. 下記の反則行為は、フリーキックが敵側のチームに与えられることにより、更に反則行為を犯した選手がレッドカードを提示され、妥当な場合、試合時間（延長時間およびPK戦などを含む）に退場命令を受けることにより、罰せられるものとします。すなわち：

- (a) 手、拳、腕、肘、頭、膝または物で、敵または味方の選手に打撃を与える、あるいは打撃行為



- を行うこと
- (b) 敵側または味方の選手を蹴ること
  - (c) 試合の関係職員に対して打撃を与える、威嚇を行う、暴言を吐く、あるいは妨害行為を行うこと
  - (d) 意図的な突撃行為（敵側または味方の選手あるいは関係職員に対する正面からの突撃行為、または飛び付くことなどが含まれます。）
  - (e) 意図的なハイタックル
  - (f) 意図的なスライディングタックル
  - (g) 敵側または味方の選手あるいは関係職員に唾を吐くこと
  - (h) 敵側または味方の選手の髪の毛を意図的に引っ張ること
  - (i) 敵側または味方の選手への噛み付き行為
  - (j) 敵側または味方の選手を踏みつけること
  - (k) 敵側または味方の選手、監督等、試合の関係職員あるいは観客に対して人種差別的、宗派的あるいは同性愛者嫌悪的な用語を用いる、またはこれらの振る舞いを行うこと
  - (l) 試合のピッチ上で、敵側または味方の選手を扇動することにより、あらゆる種類の乱闘を引き起こす、あるいは乱闘に参加すること

## イエローカードの反則行為 - シンビン

2. 下記の反則行為は、フリーキックが敵側のチームに与えられることにより、更に反則行為を犯した選手の選手名が記録され、イエローカードが提示され、退場させられることにより（シンビン）、罰せられるものとします。これは、**14歳未満リーグ**よりも上のリーグ、更に**14歳未満リーグ**を含みます。

選手が、試合への再加入後、これらの警告的な反則行

為を繰り返す場合、その選手には、2枚目のイエローカードが提示され、その次にレッドカードが提示されるとともに、その選手は、試合時間中、退場を受けるものとします。これには、該当する場合、延長時間ならびにPK戦などが含まれるものとします。

**13歳未満リーグまで、更に13歳未満リーグを含む試合については、シンピンに関する規則が適用されないものとします。**

**13歳未満リーグまで、更に13歳未満リーグを含む試合**に関しては、選手は、イエローカードを提示されるものとします。更に、選手が、更なる警告的な反則行為を繰り返す場合、選手には、2枚目のイエローカードが提示され、その次にレッドカードが提示されるものとします。その選手は、試合時間、延長時間ならびにPK戦に対する退場処分を受けるものとします。

- (a) 手あるいは足の利用により、意図的に選手を転ばせる、あるいは転倒させること
- (b) ハイタックル
- (c) 敵側の選手に対して肩で上半身に突撃すること
- (d) 敵側の選手あるいは味方の選手に対して威嚇行為を行う、または暴言を吐く、あるいは悪意的な振る舞いを行うこと
- (e) 敵側の選手が、手からのボールを蹴ろうとしている際、フットボール用ブーツで敵側の選手に妨害行為を行うこと、あるいは妨害行為を試みること
- (f) スライディングタックル
- (g) 敵側の選手がボールを拾い上げようとしている際、意図的にボールを蹴ること
- (h) 敵側の選手からボールを奪う目的で、敵側



- の選手の身体に対して拳で接触すること
- (i) 試合の関係職員の権限に異議を唱える、あるいは反対すること
  - (j) 継続的な反則行為
  - (k) フリーキック/ペナルティーを得るために、あるいは敵側の選手を警告処分もしくは退場処分に陥らせるために、怪我を受けたふりをする、あるいは意図的に転倒すること
3. 下記の反則行為は、フリーキックが敵側のチームに与えられることにより、罰せられるものとします。これらの反則行為が繰り返される場合、上記の2の中で明記されるように、イエローカードの反則行為が構成されるとともに、ペナルティーを伴い罰せられるものとします。
- (a) 敵側の選手を押す、あるいは掴むこと
  - (b) 敵側の選手からボールを奪う目的で、敵側の選手の身体に対して手で接触すること
  - (c) 敵側の選手の動きを体で阻止することなど、第3のプレーヤータックル
  - (d) 敵側の選手に対する妨害行為
  - (e) 他の選手がボールを拾い上げようとしている際、ボールに対して飛び込むこと
  - (f) ボールを所持している選手に対して肘で危険行為を行うこと
  - (g) 選手に対して正面から押すこと
  - (h) 敵側の選手の腕に対してチョップを行うこと
  - (i) 口頭または身体行為により、選手に対して威嚇行為あるいは恫喝行為を行うこと
  - (j) 敵側の選手が地面から起き上がることを阻止すること

- (k) 敵側の選手のジャージを引っ張ること
- (l) キックアウトあるいはフリーキックを意図的に遅延させること
- (m) サイドラインキックまたはフリーキックが許可されるようにするために、意図的に元の場所に戻らないこと
- (n) ボールを所持していたチームに対してフリーキックが与えられる際、ボールを遠くに蹴り飛ばすこと
- (o) ボールを所持していた選手に対してフリーキックが与えられる際、ボールを渡さないこと
- (p) 汚い言葉扱いあるいは不適切な言葉扱い
- (q) フリーキックを蹴る選手に対して妨害行為を行う目的で、ジャンプの繰り返し、手を振る、拍手、あるいは身体あるいは口頭による妨害により、フリーキックを蹴る選手を邪魔する行為  
敵側のゴール前で攻撃側チームに13メートルのフリーキックが与えられる際に上記の行為が行われる場合、選手には、ペナルティーが与えられるものとします。但し、選手は、選手の手をまっすぐに上げることができるものとします。
- (r) 敵側の選手への突撃行為

#### 4. テクニカルファウル

- (a) ボールの超過的な保持
- (b) ボールを投げること
- (c) ボールの上で横になること
- (d) 立っている姿勢ではない時にボールを地面から拾い上げること
- (e) 選手が地面でボールを保持すること



- (f) 1回以上に亙り、連続して一方の手から他方の手に対してボールを移すこと
- (g) ボールを受けた後、1回以上に亙り連続してボールを跳ねさせること
- (h) ボールへの明確な打撃行為なしで、ボールをハンドパスすること
- (i) ボールを上方にハンドパスした後、ボールが地面に落下する前に、あるいは他の選手がボールに触る前に、ボールを奪うこと

## フリーキック

1. 競技規則に関する殆ど全ての違反行為を対象としたペナルティーは、フリーキックであるものとします。例外事項として、同時に報復、反則行為がある場合には、スローインが与えられるとともに、敵側の選手に対して意図的に違反行為が犯される場合、クイックフリーキックが与えられ、継続的な規則違反には、フリーキックが与えられるものとします。
2. レフリーがフリーキックと判断し、ホイッスルを吹く場合、ボールは、手から、あるいは地面に置いてから蹴られるものとします。**この場所は、レフリーによって指示された地点であるものとします。**しかしながら、最善の慣行により、直ぐにフリーキックが行われることを目的として、その地点から最高4メートルに及ぶ許容範囲が認められます。但し、これは、犯された反則行為に対する報復を阻止する場合、または犯された反則行為に対する報復を克服できる場合に限定されるものとします。フリーキックが間違った地点から行われる場合、フリーキックは、レフリーによって指示された場所から再度行われるものとします。この規則の継続的な違反により、結果として、フリーキックが不許可となるとともに、ボールが各チーム側からの1人の選手の間でスローインされるものとします。これに加えて、他の全ての選手は、スローインから13メートル離れた地点に位置しなければならないも





のとします。

3. **14歳未満リーグまで、更に14歳未満リーグを含む試合については、45メートルキックが行われます。**選手は、手からのボール、あるいは地面に置かれたボールを蹴るものとします。15歳未満リーグから上の年齢リーグの試合については、選手は、地面に置かれたボールを蹴らなければならないものとします。

45メートルキックは、地面から蹴られ、ボールが直接にバーを越える、あるいは守備側のチームの選手に当たり、バーを越える場合、2ポイントが得点として加算されます。

ボールが正確な位置に固定されていない、あるいは間違った地点から蹴られるなど、45メートルキックを蹴る選手が何らかの違反行為を犯す場合、45メートルキックは、再び行われるものとします。選手が2回に及び違反行為を犯す場合、スローインが与えられるものとします。

敵側の選手が、正規のサイズのピッチで45メートルキックの違反行為を犯す場合、45メートルキックは、13メートルキックとなり、味方のチームに対して更に有利な状況となります。

このような状況下で、ボールが地面から蹴られ、ボールが直接にバーを越える、あるいは守備側のチームの選手に当たり、バーを越える場合、2ポイントが得点として加算されるものとします。2ポイントの得点獲得を合図するために、アンパイアは、白いフラッグを振るとともに、同時に他の手を上方に真っすぐ挙げるものとします。

45メートルキックを与えられたチームの選手が、何らかの方法で再びプレーし、ボールがバーを越える場合、1ポイントが得点として加算されるものとします。ゴールされる場



合、ゴールは得点として加算されます。

- 選手は、手からのボールあるいは地面に置かれたボールを蹴るフリーキックのオプションを選択することができます。
- あらゆるリーグの試合では、ペナルティーキックの場合、選手は、地面に置かれたボールを蹴らなければならないものとします。
- フリーキック、サイドラインキックならびに45メートルキックが地面から蹴られる以前において、ボールは固定されなければならないものとします。これを怠る場合、キックは再度行われます。但し、継続的な規則違反のために、結果的にキックが不許可となり、ボールのスローインによって試合が再開されるものとします。
- 反則行為が犯される場合、レフリーは、反則行為が犯された後の5秒間まで試合を継続することが可能であるものとします。但し、これが、反則を受けたチームのアドバンテージとなることがレフリーによって判断される場合に限定されるものとします。
- 試合の継続**を目的として、あらゆるフリーキックは、ペナルティーキックならびに13メートルのライン上のフリーキックを除き、迅速に行われるものとします。レフリーは、迅速にフリーキックが行われるために、最高4メートルの許容範囲を許可することができるものとします。
- フリーキックまたはサイドラインキックが行われる際、あらゆる敵側の選手は、ボールから13メートル離れた場所に位置しなければならないものとします。
- アドバンテージを取得するために、クイックフリーキックを蹴る選手が意図的に敵側の選手に対して何らかの反則行為を犯す場合、その選手は、フリーキックを蹴る機会を喪失し、

ボールは、各チーム側からの1人の選手の間で上方に投げられるものとします。

11. フリーキック、サイドラインキックあるいは45メートルキックが行われる際に敵側の選手が13メートル以内に位置している場合、またはフリーキックあるいはサイドラインキックに対して不当に妨害行為を行う場合、その敵側のチームには、相手側のゴール付近の13メートルのフリーキックが与えられるものとします。
12. フリーキックが与えられ、フリーキックを蹴る選手がボールから13メートル以内に位置している味方の選手にパスする場合、敵側のチームには、そのボールを受けた選手が立っていた場所からのフリーキックが与えられるものとします。
13. フリーキックを蹴る選手は、ボールを蹴った後、他の選手がボールに触るまで、再びボールに触ることができないものとします。但し、蹴った後のボールがクロスバーもしくは垂直バーに直撃し、跳ね返ってきた場合を除くものとします。選手がこの規則に違反する場合、レフリーは、反則行為が犯された場所からのフリーキックを敵側のチームに対して与えるものとします。反則行為が13メートルのラインの内側で犯された場合、レフリーは、反則行為が犯された場所の反対側に位置する13メートルのラインの地点でフリーキックを与えるものとします。
14. 選手がボールを蹴った後、何らかの反則行為が選手に対して犯された場合：
  - (a) ボールが地面に落下した地点からのフリーキックが与えられるものとします。
  - (b) 選手が得点した際、その得点は許可されるものとします。
  - (c) ボールがエンドラインを越える、または13メートルのラインの内側に落下する際、フリーキックは、ボールが落下



した地点あるいはエンドラインを越えた地点の反対側の13メートルのライン上で与えられるものとします。

(d) ボールがサイドラインを越える際、フリーキックは、ボールがラインを越えた地点から与えられるものとします。

(e) ボールが、13メートルのラインならびにエンドラインの間のサイドラインを越える場合、フリーキックは、13メートルのラインから行われるものとします。

15. 各チームからの1名の選手が同時に反則行為を犯す場合、レフリーは、各チームからの1名の選手の頭上にボールを投げるものとします。他の全ての選手は、13メートル離れた場所に位置しなければならないものとします。
16. レフリーがフリーキックを与えた場合、更にフリーキックが行われる以前に、フリーキックを与えられたチーム側の選手が報復として反則行為を犯す場合、フリーキックは許可されないものとします。更に、最初の反則行為が犯された地点において、各チームからの選手の間で頭上にボールを投げることにより、レフリーが試合を再開するものとします。
17. 選手が、敵側のチームに対してフリーキックを与えるレフリーの判断に異議を唱えるために、その異議申立ての意思を表示する場合、最高13メートルのラインまで、13メートルに亘り有利な地点からのフリーキックが与えられるものとします。最初のフリーキックが、13メートルのライン上、もしくは13メートルのラインの内側におけるサイドラインの付近である場合、レフリーは、13メートルのライン、すなわち、ゴールの中心から13メートルの地点にボールを置くものとします。

## ペナルティー

1. 下記の場合、ペナルティーが与えられなければならないものとします。すなわち：



- (a) 小さな平行四辺形のエリアの内側で、何らかの反則行為が守備側選手によって犯される場合
  - (b) 大きな平行四辺形のエリアの内側で、個人的な反則行為が守備側選手によって攻撃側選手に対して犯される場合
  - (c) 大きな平行四辺形のエリアの内側に位置している攻撃側選手が、手でボールに対して接触しているとともに、敵側の選手がボールを蹴る際、そのフットボール用ブーツが選手の手 directly に接触しなかった場合であっても、レフリーは、ペナルティーを与えるものとします。
2. 守備側選手が、ゴール前で直接に13メートルのフリーキックに対して不当な妨害行為を行う際、ペナルティーが与えられるものとします。
  3. ペナルティーに関しては、ゴール前の11メートルの中央の地点で、地面から直接にボールが蹴られなければならないものとします。更に、ゴールキーパーを除き、他の選手は、20メートルのラインから外側に位置しなければならないものとします。
  4. ゴールキーパーは、ゴールラインに沿って移動することができますが、ボールが蹴られるまで、ゴールラインから前進することが不可能であるものとします。
  5. ボールが蹴られる以前に、ゴールキーパーが前進し、ボールが外れる、キーパーに取られる、あるいはボールがキーパーに当たり、バーから外れる場合、ペナルティーは再度行われなければならないものとします。
  6. ゴールキーパーの権利ならびに特権を享受することができるのは、唯一、独特のジャージを着用した選手に限定されるものとします。



## 平方四辺形のエリア

1. 試合中、ボールが小さな平方四辺形のエリア内に入る以前に、攻撃側選手が小さな平方四辺形のエリア内に入り、ボールがあらゆる選手から離れた場所に位置している場合、小さな長方形のエリアの内側からのフリーキックアウトが守備側チームに対して与えられるものとします。
2. 攻撃側選手が、ボールを追いかけて、小さな平行四辺形のエリア内に正当に進入し、ボールがそのエリアからクリアされたが、その攻撃側選手がそのエリアから外に出る以前に、ボールが再び戻ってきた場合、その選手は、反則行為を犯さなかったものと見なされるものとします。但し、その選手が、ボールでプレーしていない、あるいは守備側選手に対して妨害行為をしていないことを条件とします。

## キックアウト

1. あらゆる試合でボールが外れた、あるいは得点となった後、ゴールからのキックアウトのために、ボールは、ゴールポストの前の20メートルのラインの地点で、手から、あるいは地面から直接に蹴られるものとします。蹴る選手、更にゴールキーパーを除き、あらゆる選手は、ボールが蹴られるまで、20メートルのラインの外側に位置しなければならないとともに、少なくともボールから13メートル離れた場所に位置しなければならないものとします。
2. ボールは、他の選手によってプレーされる以前に、20メートルのラインを越えなければならないものとします。他の選手が反則行為を犯す場合、フリーキックが敵側のチームに対して与えられるものとします。このフリーキックは、反則行為が犯された地点から反対側の20メートルのライン上で与えられるものとします。



3. 地面に置かれたボールを蹴る選手には、ティーを利用するオプションが付与されるものとします。
4. レフリーによる見解に従い、キックアウトが間違った場所から行われる場合、キックアウトは、レフリーによって指示される場所から再度行われなければならないものとします。この規則の継続的な違反のために、結果的にキックアウトが不許可となり、20メートルのライン上で、各チームからの選手の間でスローインが行われるものとします。他の全ての選手は、スローインの地点から13メートル離れなければならないものとします。

## レフリー

1. レフリーは、特別な服を着用し、またはトラックスーツを着るものとします。
2. レフリーの要件として、レフリーは、下記の事項を持参しなければならないものとします。すなわち、ホイッスル、腕時計、コイン、鉛筆/ペン、ノートブック、鉛筆削り、レッドカード、イエローカードを持参しなければならないものとします。
3. レフリーは：
  - (a) 時間通りにピッチに到着しなければならないものとします。
  - (b) レディース・ゲーリック・フットボールの規則について、徹底的な知識を持たなければならないものとします。
  - (c) 身体的かつ精神的な能力がなければならないものとします。
  - (d) 公平かつ勇敢でなければならないものとします。
  - (e) 明確に決断を伝えなければならないものとします。



(f) アンパイアならびにラインズマンに対する定期的な監視を行わなければならないものとします。

(g) 一般常識を用いなければならないものとします。

4. 競技規則の中で明記される事項に加えて、レフリーの義務ならびに権限は：

(a) 競技規則に従った試合の実施を希望する選手等を保護するとともに、競技規則に違反する選手を罰することであるものとします。

(b) 試合の開始以前において、チームリストの複写に署名し、その複写を敵のチームに対して提出することであるものとします。これに加えて、そのチームリストの受理に関する何らかの不履行を担当委員会に対して報告するものとします。

(c) 選手等が適切な服装を着用していることについて確認し、その旨を報告することであるものとします。

(d) チームのキャプテンあるいは関係職員による要請に従い、選手、交代選手の署名、現住所ならびにクラブ名を取得することであるものとします。選手ならびに交代選手の氏名は、公式リスト上で記載されるものとします。

(e) 得点を許可する、または不許可にすることであるものとします。

(f) 場合により、アンパイア、ラインズマンあるいは第4の関係職員と協議を行うとともに、試合の終了以前に退場する場合、その交代を行うことであるものとします。

(g) 試合のピッチ上で認可を受けていない人物による侵入に対処することであるものとします。

(h) 試合中、妨害行為を行う選手もしくは関係職員等の氏名を書き留めることであるものとします。

(i) レフリーは、暗さのために、あるいはその他の理由のために試合を終了するなど、競技用のピッチが試合に対して適切であるかどうかについて判断を下すものとします。

(j) レフリーは、試合の裁定を行うことが不可能ですが、





要請がある場合、最終的な得点数を提示することができるものとします。

(k) 交代選手が交代を行う追加時間、更にイエローカードあるいはレッドカードを受けた選手に対して警告するために費やされた追加時間等を延長時間として加えることであるものとします。しかしながら、懲戒に関する問題が生ずる場合、その事件の発生時刻から48時間以内において、その報告書は、適切なCODA機関に転送されるものとします。

5. 選手、選手等あるいはチームが試合の継続を拒否する場合、レフリーは、その最終的な意図を判断するために、約3分間をチームのキャプテンに対して与えなければならないものとします。
6. チームが依然として試合の継続を拒否する場合、試合の継続を希望する選手は、レフリーに対して選手名を提示しなければならないものとします。
7. 怪我を受けた選手の氏名ならびに怪我の種類について報告するものとします。
8. レフリーは、個人的な反則行為を深刻に受け止めるとともに、乱暴なプレーまたは危険なプレーの場合、その反則行為の重大さに従い、選手に対して警告を与える、あるいは選手を退場させるものとします。
9. レフリーは、ラインズマンあるいはアンパイアを却下する権限を持つものとします。
10. チームが試合に参加することを怠る/試合に参加することが不可能である場合、レフリーは、現在のチームに11名の選手が在籍していることを確認し、チームリストを取得するものとします。
11. 試合後、レフリーは、担当委員会に対してチームリストを



転送しなければならないとともに、試合に関連する全ての側面が記載された詳細な報告書を転送しなければならないものとします。

## アンパイアならびにラインズマン

1. アンパイアならびにラインズマンは、チームの一環としてレフリーと協力しなければならないとともに、レフリーによって把握されることができなかった事件等に対してレフリーの注意を向けさせなければならないものとします。アンパイアならびにラインズマンは、発生する可能性がある何らかの事件に対して是正措置を講ずる権限を有するとともに、実際のプレーに関係のない違反行為を犯した選手を訓戒する権限を有するものとします。

## 第4の関係職員

1. 第4の関係職員が雇用される場合、当該関係職員は、サイドラインに沿った競技場の中間地点に位置しなければならないものとします。当該関係職員は、郡の理事会、県あるいは中央協議会あるいは副委員会などによって選任されるものとします。

第4の関係職員の職務は：

- (a) 交代選手あるいは臨時の交代選手の氏名ならびに番号、更に交代もしくは代替の選手の氏名および番号などが記載された交代の記録を受領することであるものとします。
- (b) 試合結果の報告書の中に記載されることを目的として、試合中に交代された全ての交代選手ならびに臨時の交代選手について記録するとともに、レフリーに対して報告することであるものとします。
- (c) 電光掲示板あるいは手作業による掲示板で交代され

- る選手の番号を表示することであるものとします。
- (d) シンビンの時間を計測することであるものとします。
  - (e) 直接にプレーに関係していない何らかの事件、あるいはボールがポストの内側あるいは外側であったかどうかについての争議が提起される場合における得点など、これらの問題についてレフリーまたはライズマンに対して報告することであるものとします。
  - (f) 認可を受けていない関係職員がサイドラインに近づかないようにするものとします。
  - (g) 試合が中断される際、チームの関係職員あるいは交代選手によって行われた何らかの嫌がらせをレフリーに対して報告することであるものとします。
  - (h) 要請に従い、競技場の現場から退去する以前において、レフリーに対して報告を行うことであるものとします。その報告書には、試合中のサイドラインに関する規則違反に関連したレフリーの報告書が含まれなければならないものとします。







レディース・ゲーリック・フットボール協会  
Croke Park  
Dublin 3  
[www.ladiesgaelic.ie](http://www.ladiesgaelic.ie)